

Financial Report

第73期事業報告書 2003.4.1～2004.3.31



株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、第73期の事業報告をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期の連結決算の業績につきましては、自動車部門において、北米を除く海外と国内に導入しました新型レガシィが好調に推移したことなどにより、売上高は過去最高となり、当期純利益では増益となりました。また、単独決算においても、売上高は過去最高となりました。しかしながら、新型車導入に関する初期費用の増加や為替レート差等が影響し、連結決算・単独決算ともに、営業利益と経常利益については、前期に比べ減少いたしました。

このような状況のなか、当期末の配当金につきましては、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、1株当たり4円50銭をもって株主のみなさまにお報いいたしたく存じます。これにより平成15年度の配当金は、中間配当の4円50銭を含め1株当たり9円となります。これも偏に株主のみなさまをはじめ、関係各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

今後の経営環境は、引き続き不透明な状況にあるなか、グローバルな競争はさらに厳しさを増しています。こうしたなかで、当社は成長し続ける企業であるために「存在感と魅力ある企業」を目指す活動として策定した、中期経営計画・FDR-1 (Fuji Dynamic Revolution-1) の達成を図ってまいります。そのために、総合ブランド戦略として、商品戦略から技術・販売・原価など全ての領域で、スバルブランドのプレミアム化に向けた取り組みをさらに推進していきたいと考えております。

そのなかでスバル・オートモーティブビジネスでは、今年度を特に販売攻勢の年と位置付け、拡販に資するための効果的な販売戦略を展開するとともに、コスト競争力の強化を進め、収益力の向上を図ってまいります。また「2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞した「レガシィ」を主軸として、日本・欧州・豪州における好調な販売を継続させるとともに、主要市場である北米に、現地生産による新型レガシィの発売を開始しており、確実な成果へと繋げてまいります。



SUBARU レガシィ (LEGACY / B4 / OUTBACK)

2003
2004

日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催

あわせて、北米市場へは、当社とゼネラルモーターズ（GM）傘下にあるスウェーデンのサーブオートモービルが共同開発した「サーブ9-2X」の、この夏の発売へ向けた供給を開始しており、GMグループとしてのアライアンス戦略も加速させてまいります。

航空宇宙カンパニーでは、防衛庁向けの戦闘ヘリコプターの国産化および大型機プログラムの開発作業の着実な推進を図るとともに、民需ではボーイング社の次世代旅客機7E7への参画や米国エクリプス社の小型ジェット機への主翼供給など、新たなプログラムへ向けて積極的に取り組んでまいります。さらに主翼製造や無人機開発などのコア技術に一層磨きをかけ、新規受注獲得へ向けた活動を展開してまいります。

産業機器カンパニーでは、燃費・排出ガスなどの環境基準への対応強化を図るとともに、数多くのお客様に支持をいただいている品質と使い勝手の良い商品を、より低コストで実現し、新たな市場開拓を含めた拡販に努めてまいります。

エコテクノロジーカンパニーでは、塵芥収集車のトップブランドとしてさらなる基盤強化を図るとともに、新エネルギーとして期待される風力発電や、独自技術を有する知能ロボットなど、環境事業の新たな可能性にもチャレンジしてまいります。

また、従来より地球環境保全やコンプライアンスなどに取り組んでおりますが、社会的信頼度の高い企業となるべく、人・社会・環境とが調和する諸活動をさらに積極的に進めてまいります。

以上のような活動を通じ、株主をはじめとする全てのステークホルダーのみなさまのご期待に沿うべく成長、発展へ向けグループ全社をあげて最大限の努力を続けてまいります所存です。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月



代表取締役社長

竹中 恭二

営業の概況及び業績の推移

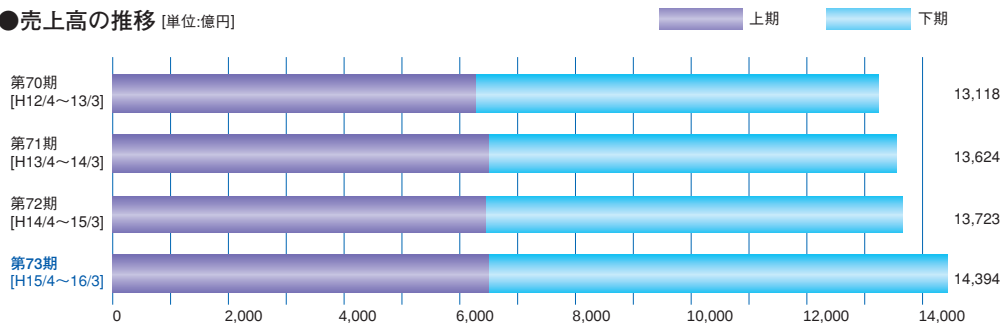
[営業の概況]

連結決算の売上高は、自動車部門の国内販売において新型レガシィが好調に推移し、他の登録車の落ち込みをカバーするとともに、海外では欧州での新型レガシィの販売が伸長したことに加え、米国の現地生産会社の受託生産が寄与し、1兆4,394億円と前期に比べ671億円(4.9%)の増収となりました。営業利益は各種費用の低減に努めましたが、新型車導入に関する初期費

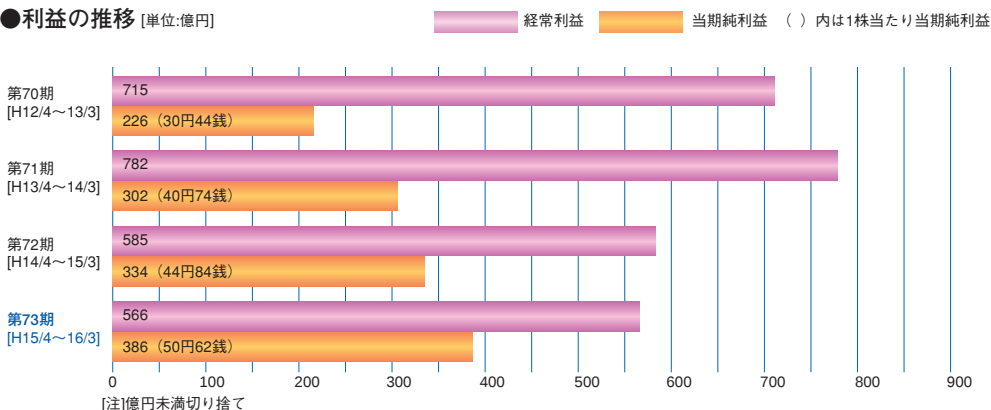
用の増加や為替レート差等の減益要因があり、503億円と前期に比べ171億円(25.5%)の減益となりました。しかし、経常利益は米国の現地生産会社の完全子会社化に関する連結調整勘定の償却や米国子会社の為替換算に係る為替差益等による増益要因があり、566億円と前期に比べ19億円(3.3%)の減益に留まりました。なお、当期純利益は投資有価証券の売却益を

[連結の業績及び推移]

●売上高の推移 [単位:億円]



●利益の推移 [単位:億円]



計上したことや投資有価証券評価損が減少したことなどにより、386億円と前期に比べ51億円(15.4%)の増益となりました。

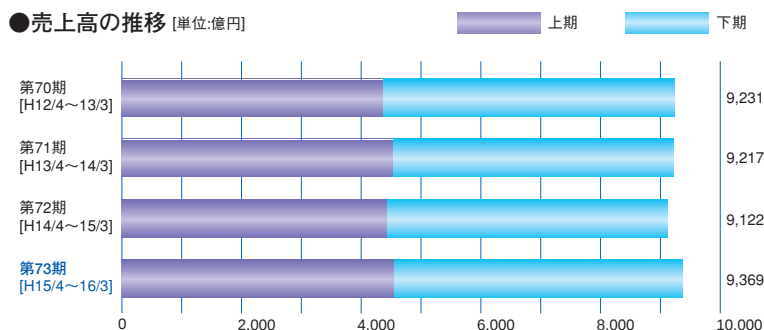
単独決算の売上高は、自動車部門において、国内で新型レガシィが好調に推移したことにより9,369億円と前期に比べ246億円(2.7%)の増収となりました。

利益面につきましては、営業利益は各種費用

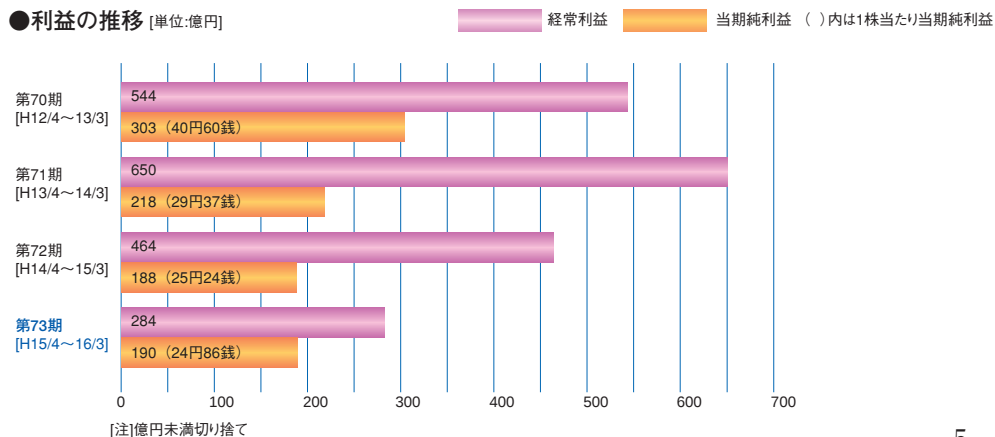
の低減に努めましたが、為替レート差および新型車導入に関する初期費用の増加等があり301億円と前期に比べ200億円(39.9%)の減益となり、経常利益につきましても、284億円と前期に比べ179億円(38.7%)の減益となりました。当期純利益につきましては、投資有価証券等評価損が減少したことなどから190億円と前期に比べ1億円(0.7%)の増益となりました。

[単独の業績及び推移]

●売上高の推移 [単位:億円]



●利益の推移 [単位:億円]



部門別営業報告

〔スバル・オートモーティブビジネス〕

新型レガシィが好調に推移し、国内、海外共に売上台数増加。

スバルの登録車は、昨年5月にフルモデルチェンジした主力車種「レガシィ」が好調なスタートを切り、当社で初めて「2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー」の受賞に輝くなど販売が好調に推移し、71千台と前期に比べ21千台（40.4%）の大幅な増加となりました。これにより登録車全体では、「インプレッサ」や「フォレスター」の減少はありましたが、117千台と前期に比べ11千台（9.9%）の増加となり、3年振りに前期を上回ることができました。

一方、軽自動車につきましては、昨年12月に新しいミニカーの価値を追求し発売した「スバル R2」の販売が順調に推移しました。また「サンバー」も伸長し前期を上回りましたが、「プレオ」が大幅に減少し、軽自動車全体では143千台と前期に比べ6千台（3.8%）の減少となりました。

以上の結果、国内における登録車の登録台数と軽自動車届出台数の合計は261千台と前期に比べ5千台（1.9%）上回り、売上（出荷）台数につきましても262千台と前期に比べ10千台（4.0%）の増加となりま

した。

海外の平成15年の現地販売につきましては、米国では「インプレッサ」や新型への切替えを控えた「レガシィ」が減少したものの、「フォレスター」が増加し、187千台と新記録を達成しました。

欧州においては、「フォレスター」および「インプレッサ」が引き続き好調に推移するとともに、「新型レガシィ」や「新型G3Xジャスティ」の導入もあり47千台と前期を上回りました。

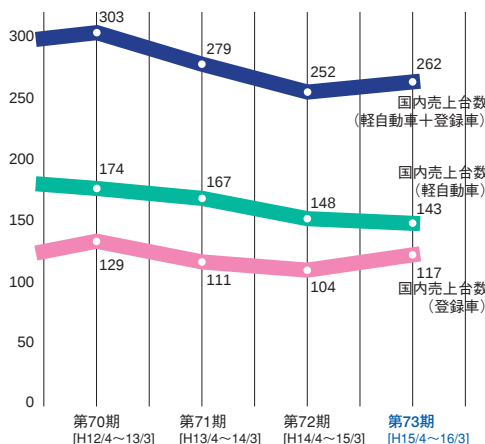
さらに豪州においても、「フォレスター」が順調に販売台数を伸ばすとともに、「インプレッサ」も好調に推移し、30千台と過去最高の前年をさらに上回りました。

これらの状況のなかで、完成車輸出台数は、「インプレッサ」が前期を下回りましたが「レガシィ」が大幅に上回り、201千台と前期に比べ5千台（2.5%）の増加となりました。しかし、CKD（海外現地生産分）につきましては、北米において「レガシィ」がモデル最終年度となることから、90千台と前期に比べ17千台（16.2%）の減少となり、完成車およびCKDの合計は291千台と前期に比べ13千台（4.1%）の減少となりました。

以上の結果、国内と海外を合わせた売上（出荷）

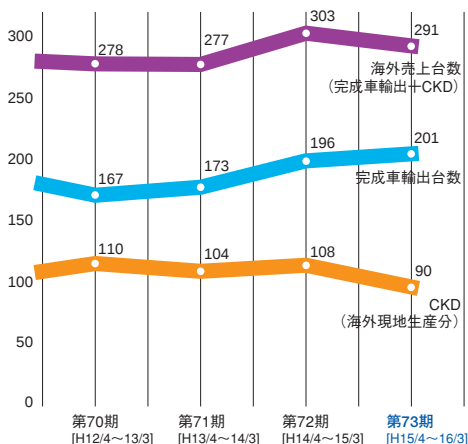
● 売上台数の推移（国内）

〔単位：千台〕



● 売上台数の推移（海外）

〔単位：千台〕



台数は、553千台と前期並みとなりましたが、スバル・オートモチブビジネス全体の売上高は「新型レガシィ」の発売が寄与し、8,355億円と前期に比べ5.5%の増収となりました。

[航空宇宙カンパニー]

防衛庁向け製品が増加

航空宇宙カンパニーは、防衛庁向け製品では中等練習機「T-4」が昨年度納入完了したことなどによる減収要因はありましたが、次期固定翼哨戒機・輸送機の売上増加や初等練習機「T-7」の機数増加に加え、遠隔操縦観測システム量産型の納入開始などにより前期を上回りました。一方、民需は、米国同時多発テロ以降、航空業界に影響する事象が多々あり、ボーイング社向け製品が引き続き減少したことや、高速飛行実証機等が昨年度納入完了したことなどにより前期を下回りました。これらの結果、売上高は567億円と前期に比べ9.9%の減収となりました。

[産業機器カンパニー]

国内外で売上が好調に推移

産業機器カンパニーは、国内では発電機搭載用

エンジンや小型土木建設機械用エンジンが増加したことなどにより前期を上回りました。また海外も米国向けレジャービークル用エンジンの拡販や中東・欧州向けエンジン等が増加したことにより、売上高は342億円と前期に比べ2.0%の増収となりました。

[エコテクノロジーカンパニー]

フジマイティの売上が増加

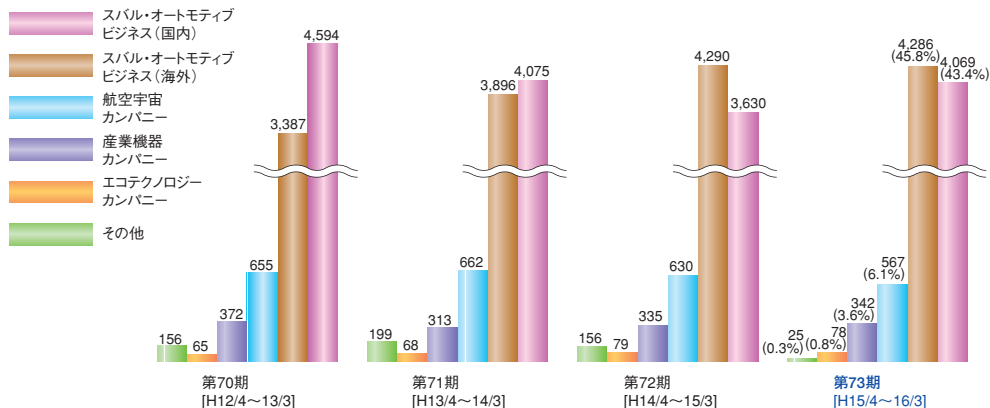
エコテクノロジーカンパニーは、首都圏でのディーゼル車排出ガス規制による買い替え特需により、塵芥収集車フジマイティが過去10年間で最高の出荷台数となり、売上を伸ばしました。しかし、ゴミ処理設備が落ち込み、売上高は78億円と前期に比べ1.5%の減収となりました。

[その他]

各事業部で売上高減少

ハウス事業につきましては、コンテナハウスが減少したほか、車両事業およびバス事業が平成15年3月末をもって新車生産を終了したことにより、売上高は25億円と前期に比べ83.9%の減収となりました。

●部門別売上高の推移 [単位:億円] ()内の数字は、第73期の部門別売上高構成比です。



NEWレガシイ発売から1年 各方面で多くの賞を受賞。

昨年5月にフルモデルチェンジしたNEWレガシイは、車種の追加、欧州・豪州での本格導入を経て、世界で順調な販売を続けております。さらにスバルとしては初の「2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー」受賞など、クルマとしての本質をより一層高めた、その商品力にも高い評価をいただいております。ここでは、そのNEWレガシイの一年を振り返ります。



日本カー・オブ・ザ・イヤーを初受賞

【国 内】

●2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤー

日本カー・オブ・ザ・イヤー（第1位）

●RJCカー・オブ・ザ・イヤー2004/ノミネート

RJCカー・オブ・ザ・イヤー（レガシイシリーズ・優秀車として認定）

RJCベストSUV（アウトバック・特別賞 SUV優秀車として認定）

●2003日経優秀製品・サービス賞

日経産業新聞賞（優秀賞）

●オートカラーアワード2004 [日本流行色協会]

ソフィスティケイティッド・カラー賞

（審査員特別賞アウトバック シャンパンゴールドオパール

アイボリーレザーセレクション）

●MBC賞 [マイカーベストチョイス賞:アポロ出版]

グランドチャンピオン、部門賞3部門獲得

【海 外】

●AAオートカー カー・オブ・ザ・イヤー 2004

[ニュージーランド自動車協会・ニュージーランドAutocar Magazine]

総合評価 第1位

ベストミディアムサイズカー部門 第1位

※AA=Automobile Association

●オーストラリア 衝突安全性能に関する試験

[ANCAP: Australian New Car Assessment Program]

最高評価のFive Star (5つ星) を獲得

NEWレガシイの1年 （青字:国内 赤字:海外）

2003年

5月 NEW レガシイ発表（ツーリングワゴン・B4 2ℓモデル）
ツーリングワゴン発売

6月 発売10日間で7,000台を受注
B4発売

9月 第60回フランクフルト国際モーターショーに
3.0ℓモデルを発表

国内で「ツーリングワゴン3.0R」「B43.0R」を
発表・発売

欧州にレガシイセダン・ワゴン、アウトバックを導入

10月 豪州にレガシイセダン・ワゴン（豪州名リパティ）、
アウトバックを導入

国内で「スバル アウトバック」を発表・発売

11月 当社初となる「2003-2004 日本カー・オブ・
ザ・イヤー」を受賞

2004年

1月 デトロイトモーターショーにNEWレガシイシリーズ
を出品

5月 一部改良、「アウトバック L.L.Beanエディション」
を発表

今年度は米国市場へ導入

NEWレガシイが米国市場へ導入され、レガシイシリーズの世界戦略がいよいよ本格化します。当社スバルブランドの主力商品として、今後も開発・販売の両面において進化を続けてまいります。

WRC日本初上陸 RALLY JAPAN開催間近

F1と並び称されるモータースポーツの最高峰WRC (FIA 世界ラリー選手権) が、今年9月3～5日、北海道・帯広市とその周辺で初開催されます。

1993年のフル参戦開始から10年以上にわたって輝かしい実績を挙げてきたSUBARUの歴史と、今回の「ラリー・ジャパン」の見どころをご紹介します。

SUBARUとWRC

スバルは1990年にレガシィでWRCに本格参戦を始めました。フル参戦初年度の1993年ラリー・ニュージーランドで初優勝。その後インプレッサにスイッチし1995、96、97年とマニファクチャラーズ（製造者部門）タイトル3連覇を達成。ドライバーズタイトルも1995、2001、2003年と3人のチャンピオンを輩出しました。今年も改良が進んだインプレッサWRC2004でドライバーズタイトル2連覇を目標に、世界16ヶ国を転戦しています。



PHOTO:2003年 ラリー北海道



PHOTO:2003年 ラリー・グレートブリテン

ラリー北海道からRALLY JAPANへ

2001年に国際格式ラリーとして始まった「ラリー北海道」は、当初からWRCへの昇格を目標に実施されてきました。翌2002年には、日本初のFIAアジア・パシフィックラリー選手権に昇格し、四回目となる今回いよいよ最高峰のWRCとして開催されます。SUBARUは2002年ボッサム・ボーン、2003年新井敏弘と2連勝中となるこのイベント。今年も2003年WRCドライバーズチャンピオンのペター・ソルベルグらを擁し、総合優勝を狙います。



PHOTO:2003年 ラリー北海道

世界王者と北欧の新鋭、期待の日本人最速ラリードライバーが、北海道の大地を駆け抜ける。SUBARUインプレッサの走りにご期待ください。



ペター・ソルベルグ (右)

1974年ノルウェー生まれ。2003年WRCドライバーズ・チャンピオン、WRC新時代を代表するドライバー。

ミッコ・ヒルボネン (左)

1980年フィンランド生まれ。元世界王者で同郷のトミ・マキネンに認められSUBARUワールドラリーチームに入った23才の新鋭。



新井 敏弘

1966年群馬県生まれ。1997年にSUBARUで全日本王者に輝く。今年は自らのチーム「SUBARUチームアライ」を結成。市販車に近いグループNのインプレッサで、昨年惜しくも逃したPCWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）のチャンピオンを目指して戦っている。



新しい軽自動車のカタチを提案 SUBARU R2の魅力。

昨年12月に発表いたしました「SUBARU R2」は、スバルの40年以上にわたる軽自動車づくりの粋を結集し、市場に対して新しい価値をご提案した商品です。おかげさまで販売も順調に推移しており、当社の主力商品のひとつとなりつつあります。ここではそのSUBARU R2の魅力を改めてご紹介します。

1 クラストップ[※]の低燃費を実現

新開発の4気筒DOHCエンジンとスバル独自のi-CVT(無段変速機)の組み合わせにより、24.0km/ℓという低燃費を達成。気持ちいい走りの良さと市場要求の高い燃費性能の両立を実現しました。



※ R 2WD・i-CVT 10・15モード燃費、ガソリン軽乗用、ハイブリット車を除くオートマチック車 2003年3月現在
PHOTO:ステッカー上 平成22年度燃費基準に対し、5%以上の燃費向上を達成した車種が認定されます。
ステッカー下 平成17年国土交通省排出ガス基準に対し、50%以上の低減を達成した車種が認定されます。



2 11色のボディカラーを用意

お客様に選ぶ楽しさ、自分だけのクルマを作り上げる楽しさを提供するために、11色という豊富なボディカラーと、アイボリー・ブラック2種類の内装色を設定し、選択可能としました。

3 「香り」という新要素の提案

室内の香りを、楽しいドライブの重要な要素と位置づけ「SUBARUアロマティックブレイク」と名付けた3種類のアロマオイルをオプション設定。特に女性ユーザーに大きな反響を得ています。





エモーショナルな美しいデザインのエクステリア&インテリア

SUBARU R2は、近年当社が進めてきた「デザイン力の強化」に対するひとつの成果です。開発スタッフである商品企画本部デザイン部 重田 美恵子がデザイン上のポイントを解説します。

美しさと安全性を両立した ワンモーションフォルム

個性的でありながら、乗ることをワクワクさせるようなデザインを目指しました。新しいボディカラーとのマッチングも重視しています。



直線的で使いやすい インストルメントパネル

オーディオやエアコンのスイッチ類を中央に集中させ、操作性を高めています。照明の色やメーターの細かい演出などにもこだわり、走ることの楽しさを演出しています。

これまでの軽自動車にない 細部の質感へのこだわり

従来の「本革風」から○△◇というような、幾何学的なパターンを織り込んだ表面処理をすることで、これまでの軽自動車にはなかった上質で、新鮮な風合いを持たせることができました。

連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第73期 平成16年3月31日現在	第72期 平成15年3月31日現在
資産の部		
流動資産	654,879	670,149
現金及び預金	46,684	69,781
受取手形及び売掛金	122,724	128,523
有価証券	113,490	94,636
たな卸資産	179,338	198,656
短期貸付金	101,871	98,177
繰延税金資産	34,149	40,340
その他	57,284	40,522
貸倒引当金	△ 661	△ 486
固定資産	694,848	673,923
(有形固定資産)	(509,743)	(496,542)
建物及び構築物	117,446	115,193
機械装置及び運搬具	161,950	171,352
土地	166,518	157,895
建設仮勘定	20,935	14,441
その他	42,894	37,661
(無形固定資産)	(40,453)	(38,173)
(投資その他の資産)	(144,652)	(139,208)
投資有価証券	57,045	46,486
長期貸付金	4,918	4,829
繰延税金資産	29,707	33,466
その他	57,938	58,148
投資評価引当金	△ 280	—
貸倒引当金	△ 4,676	△ 3,721
資産合計	1,349,727	1,344,072

科目	第73期 平成16年3月31日現在	第72期 平成15年3月31日現在
負債の部		
流動負債	603,231	619,820
支払手形及び買掛金	193,186	213,748
短期借入金	227,917	201,970
コマーシャルペーパー	10,000	9,000
一年内償還社債	10,000	10,000
一年内償還転換社債	—	18,774
未払法人税等	5,092	10,047
未払費用	69,784	73,829
賞与引当金	17,165	16,974
製品保証引当金	26,959	24,374
その他	43,128	41,104
固定負債	289,469	309,638
社債	90,800	80,800
長期借入金	40,279	68,562
土地再評価に係る繰延税金負債	478	442
退職給付引当金	61,654	61,170
役員退職慰労引当金	1,228	1,335
連結調整勘定	44,027	48,940
その他	51,003	48,389
負債合計	892,700	929,458
少数株主持分		
少数株主持分	3,319	3,362
資本の部		
資本金	153,795	144,455
資本剰余金	160,107	150,766
利益剰余金	165,192	133,186
土地再評価差額金	421	389
その他有価証券評価差額金	10,291	3,446
為替換算調整勘定	△ 33,300	△ 18,237
自己株式	△ 2,798	△ 2,753
資本合計	453,708	411,252
負債、少数株主持分及び資本合計	1,349,727	1,344,072

連結損益計算書

単位：百万円

科目	第73期 自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日	第72期 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	1,439,451	1,372,337
売上原価	1,085,716	1,011,582
販売費及び一般管理費	303,411	293,234
営業利益	50,324	67,521
営業外損益の部		
営業外収益	17,943	4,535
受取利息及び配当金	2,081	1,855
連結調整勘定償却額	4,912	—
その他	10,950	2,680
営業外費用	11,653	13,490
支払利息	2,416	2,941
その他	9,237	10,549
経常利益	56,614	58,566
特別損益の部		
特別利益	8,353	746
固定資産売却益	2,600	553
投資有価証券売却益	4,564	—
前期損益修正益	1,049	—
その他	140	193
特別損失	8,701	12,342
固定資産売却・除却損	5,689	5,375
投資有価証券売却損	411	994
投資有価証券評価損	221	3,884
退職給付費用	1,268	—
事業撤退損失	—	1,882
その他	1,112	207
税金等調整前当期純利益	56,266	46,970
法人税、住民税及び事業税	12,030	20,359
過年度未払法人税等戻入額	—	△ 2,973
法人税等調整額	5,603	△ 3,810
少数株主損失	(加算) 16	(加算) 90
当期純利益	38,649	33,484

連結キャッシュ・フロー計算書

●キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は1,394億円と前期に比べ305億円減少しました。

当連結会計年度の前期に対するキャッシュ・フローの増減状況と要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の営業活動による資金の増加は、税金等調整前当期純利益562億円、減価償却費711億円を主たる源泉として、仕入債務の減少額139億円、法人税等支払額183億円等の支出により997億円となり、前年同期比82億円の資金の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の投資活動により支出した資金は、有価証券の取得が前年同期比155億円多く、売却が同じく293億円少ないこと、固定資産の取得が増えたことおよび貸付金による支出が増えたこと等から1,271億円となり、前期に比べ710億円の資金の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の財務活動は、社債の発行が前年同期比100億円多く、同じく償還が118億円少なかったこと、コマーシャルペーパーの純増加額が80億円少なかったこと等により、23億円の調達と前期に比べ140億円の資金の増加となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

科目	第73期	第72期
	自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日	自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	99,774	108,063
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 127,140	△ 56,088
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,335	△ 11,689
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5,512	△ 4,050
現金及び現金同等物の増加額（△ 減少額）	△ 30,543	36,236
現金及び現金同等物期首残高	169,944	133,708
現金及び現金同等物期末残高	139,401	169,944

活動レポート

「2003国際ロボット展」に出展 優れた実用性が高い評価を受ける

国内の最先端のロボット技術が一堂に会する「2003国際ロボット展」が昨年11月東京ビックサイトで開催され、当社からは「清掃ロボット」「地雷処理ロボット」等を出展いたしました。多数の来訪者が訪れ「実用的で、利益を生むサービスロボットのビジネスモデル」であるとして当社のロボットに高い評価をいただきました。今後も様々な場面で人の負担を軽減させる実用的なロボットの開発に取り組んでまいります。



大型ショッピングセンター 「ステラタウン」がオープン

当社旧大宮製作所跡地の再開発として開発を推進してきた大型ショッピングセンター「ステラタウン」が本年4月28日にオープンいたしました。輝く星のように夢と感動を与える施設でありたいという想いを込め、当社のシンボル「六連星」から想起した“ステラ(星)”から命名された当施設は、幅広い世代をターゲットとした専門店モールと大型スーパーで構成され、「さいたま市北部拠点宮原地区」の商業機能の中核を担う施設として期待されています。なお、事業の運営は関係会社のスバル興産(株)が行っています。



株主様対象の工場見学会を 当社で初めて実施

本年3月6日、当社初となる株主様向けの工場見学会を実施いたしました。この見学会は当社の企業方針や、活動状況に対するご理解を深めていただくことを目的とし、今回は群馬製作所矢島工場とビジターセンターを見学していただきました。当日は全国各地から112名の方にご参加いただき、貴重なご意見も多数いただきました。株主様向け工場見学会は今後も継続して実施する予定です。



単独貸借対照表

単位：百万円

科目	第73期 平成16年3月31日現在	第72期 平成15年3月31日現在	科目	第73期 平成16年3月31日現在	第72期 平成15年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	408,744	395,113	流動負債	304,489	305,091
現金及び預金	25,336	30,832	支払手形	3,762	4,697
受取手形	2,585	3,781	買掛金	172,465	157,348
売掛金	120,090	113,598	短期借入金	25,040	25,040
有価証券	75,850	80,314	POINT 3 一年内返済長期借入金	7,018	1,281
製品	31,774	26,876	POINT 1 一年内償還社債	10,000	10,000
原材料	4,988	5,605	一年内償還転換社債	—	18,774
仕掛品	51,140	51,591	未払金	14,716	18,497
貯蔵品	1,580	1,568	未払費用	41,196	40,616
前渡金	15,305	5,272	未払法人税等	447	5,457
前払費用	2,248	1,585	前受金	1,885	666
繰延税金資産	16,045	16,162	預り金	699	984
未収入金	24,658	20,020	前受収益	132	138
短期貸付金	31,437	35,290	賞与引当金	11,417	11,717
その他の流動資産	5,746	2,676	製品保証引当金	9,180	7,390
貸倒引当金	△ 44	△ 64	設備関係支払手形	2,075	2,260
固定資産	538,380	514,237	その他の流動負債	4,449	219
(有形固定資産)	(241,788)	(243,604)	固定負債	138,068	136,642
建物	51,548	49,997	POINT 3 POINT 1 社債	90,000	80,000
構築物	6,920	6,534	長期借入金	4,794	10,820
機械装置	88,002	84,486	長期未払金	1,675	2,645
航空機	107	165	預り保証金	1,404	1,708
車両運搬具	1,465	1,147	退職給付引当金	40,067	41,182
工具器具備品	11,179	11,290	役員退職慰労引当金	127	239
土地	80,274	79,617	債務保証損失引当金	—	47
建設仮勘定	2,289	10,364	負債合計	442,557	441,734
(無形固定資産)	(20,117)	(15,881)			
工業所有権	11	15	資本の部		
ソフトウェア	13,219	10,758	資本金	153,795	144,454
その他の無形固定資産	6,886	5,108	POINT 1 資本剰余金	160,070	150,766
(投資その他の資産)	(276,474)	(254,751)	資本準備金	160,070	150,766
投資有価証券	44,143	35,412	利益剰余金	183,892	171,836
子会社株式	136,673	132,978	利益準備金	7,901	7,901
出資金	32	56	配当準備積立金	6,000	6,000
子会社出資金	453	432	退職手当積立金	1,000	1,000
長期貸付金	60,279	44,865	別途積立金	78,335	78,335
長期前払費用	3,102	2,959	当期末処分利益	90,656	78,600
繰延税金資産	31,985	37,800	(うち当期利益)	(19,012)	(18,880)
その他の投資その他の資産	7,828	8,107	株式等評価差額金	9,579	3,284
投資評価引当金	△ 280	—	自己株式	△ 2,771	△ 2,723
貸倒引当金	△ 7,746	△ 7,861	資本合計	504,566	467,617
資産合計	947,124	909,351	負債及び資本合計	947,124	909,351

[注] 百万円未満切り捨て

単独損益計算書

単位：百万円

科目	第73期 自 平成15年4月 1日 至 平成16年3月31日	第72期 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	936,911	912,228
営業費用	906,767	862,067
売上原価	750,315	701,190
販売費及び一般管理費	156,452	160,876
営業利益	30,143	50,161
営業外損益の部		
営業外収益	6,804	8,018
受取利息及び配当金	1,863	3,799
その他の営業外収益	4,940	4,218
営業外費用	8,451	11,726
支払利息	1,601	1,968
その他の営業外費用	6,850	9,757
経常利益	28,496	46,453
特別損益の部		
特別利益	6,687	8,564
固定資産売却益	1,479	518
投資有価証券等売却益	4,036	0
貸倒引当金戻入額	75	625
債務保証損失引当金戻入額	47	7,420
前期損益修正益	1,049	—
特別損失	5,832	30,354
固定資産売却・除却損	4,968	3,655
投資有価証券等売却損	390	963
投資有価証券等評価損	193	23,840
投資評価引当金繰入額	280	—
事業撤退損失	—	1,882
その他の特別損失	—	13
税引前当期純利益	29,351	24,663
法人税、住民税及び事業税	8,691	15,681
過年度未払法人税等戻入額	—	△ 2,973
法人税等調整額	1,646	△ 6,926
当期純利益	19,012	18,880
前期繰越利益	75,148	63,061
中間配当額	3,504	3,342
当期末処分利益	90,656	78,600

[注] 百万円未満切り捨て

POINT 1 社債の発行

社債償還資金や関係会社に対する投融資および設備資金に充当するため、普通社債20,000百万円を発行しました。なお、当中間期に18,644百万円の転換社債が転換され、資本金および資本準備金に組み入れられました。

POINT 2 特別損益

当期は、株価の変動リスク回避のため、保有する有価証券を売却し、その売却益として4,035百万円を計上しています。また、軽自動車の生産ライン統合などにより、固定資産売却・除却損4,968百万円を計上しています。

POINT 3 有利子負債

財務体質の改善を図るため、有利子負債（社債、借入金等）を削減しました。当期末の有利子負債は136,853百万円となり、前期末に比べ、9,061百万円減少しました。

[貸借対照表及び損益計算書に関する注記]

1. 有形固定資産減価償却累計額……………432,890百万円
2. 担保に供している資産 有形固定資産……………38,485百万円
3. 子会社に対する短期金銭債権……………117,927百万円
子会社に対する短期金銭債務……………37,762百万円
子会社に対する長期金銭債権……………65,785百万円
子会社に対する長期金銭債務……………280百万円
子会社に対する売上高……………602,018百万円
子会社よりの仕入高……………99,740百万円
子会社との営業取引以外の取引高……………5,405百万円
4. 保証債務……………167,118百万円

利益処分

株式事項

[単位: 円]

平成16年3月31日現在

摘要

金額

当期末処分利益	90,656,742,967
配当準備積立金取崩額	6,000,000,000
退職手当積立金取崩額	1,000,000,000
合計	97,656,742,967

これを下記のとおり処分いたします。

株主配当金 (1株につき4.5円)	3,504,535,709
役員賞与金 (うち監査役分)	100,000,000 (14,000,000)
土地圧縮積立金	687,091,838
別途積立金	7,000,000,000
次期繰越利益	86,365,115,420

- [注] 1. 平成15年度配当は、中間配当1株当たり4.5円を含め1株当たり9円になります。
2. 土地圧縮積立金は租税特別措置法に基づくものであります。

●株式の総数

発行する株式の総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	782,865,873株
[注] 当期中の増加	36,344,992株
転換社債の転換による新株式の発行	36,344,992株

●株主数

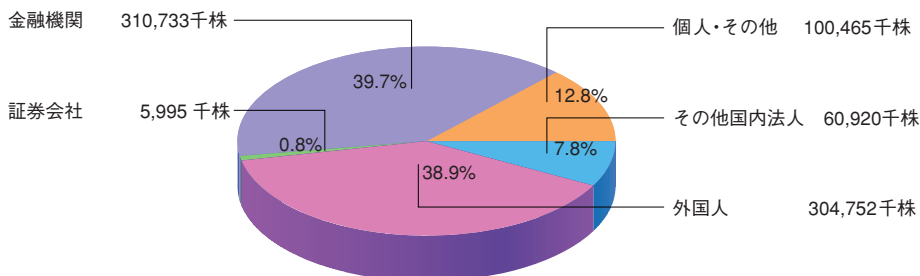
45,178名

●大株主

株主名	株式数(千株)
ゼネラル モーターズ オブ カナダ リミテッド	157,262
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	59,595
ザチエスマンハッタンバンクエヌエイロンドン	50,771
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	50,417
株式会社みずほコーポレート銀行	31,736
スズキ株式会社	21,081
日本生命保険相互会社	17,762
株式会社損害保険ジャパン	11,649
野村信託銀行株式会社投信口	10,540
富士重工業取引先持株会	7,991

●株式の分布状況

合計782,865千株



役員

平成16年3月31日現在

代表取締役社長	竹中恭二	執行役員	岩崎雅利
代表取締役副社長	和田英生	執行役員	寺尾俊文
取締役兼専務執行役員	鈴木 浩	執行役員	石神邦男
取締役兼専務執行役員	荒澤紘一	執行役員	工藤一郎
取締役兼専務執行役員	土屋孝夫	執行役員	デイビッド J. マリック
取締役兼専務執行役員	中坪博之	執行役員	杉本 清
取締役兼専務執行役員	高木俊輔	執行役員	星 恒憲
★取締役	フレデリック A.ヘンダーソン	執行役員	森 郁夫
専務執行役員	中原國隆	執行役員	石原 卓
専務執行役員	伊能喜義	執行役員	近藤 潤
専務執行役員	小松 熙	執行役員	岡崎鎮弘
		執行役員	湯浅誠治
常務執行役員	塚原 穰	執行役員	桜井 智
常務執行役員	和仁喜三郎	執行役員	石藤秀樹
常務執行役員	及川博之	執行役員	望月孝司
常務執行役員	石丸雍二	執行役員	デレック C. レック
常務執行役員	奥原一成		
常務執行役員	松尾則久	常勤監査役	吉橋隆美
常務執行役員	田村 稔	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	鷲頭正一	常勤監査役	永野正義
		☆監査役	野村邦武

[注1] ★印は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

[注2] ☆印は商法特例法第18条第1項に定める社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日 3月31日
株主確定日
定時株主総会 } 3月31日
利益配当金 }
中間配当金 9月30日
その他の基準日 上記のほか、取締役会の決議により
あらかじめ公告する一定の日

定時株主総会 6月中
名義書換代理人
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
[郵便物送付先・電話お問合せ先]
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 03-5213-5213[代表]
同取次所
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

[会社の概要]

社名 富士重工業株式会社
英文社名 FUJII HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立 昭和28年7月15日
資本金 1,537億9,527万円
従業員数 14,189名
主要製品 普通・小型自動車、軽自動車、
航空機、汎用エンジン、環境車両
本社 〒160-8316
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-各部署ダイヤル直通
番号案内 03-3347-2111

●単元未満株式の買増制度のお知らせ

当社は平成16年7月1日より1単元(1,000株)に満たない株式(単元未満株式)をご所有されている株主の皆様のご便宜を図るため、従来からの買取制度に加え、「単元未満株式の買増制度」を実施することといたしました。

買増制度とは、当社の1単元(1,000株)に満たない株式を所有されている株主様が、ご所有の単元未満株式と併せて1単元となる数の株式を買い増すことができる制度です。

制度内容、買増請求のお手続き等の詳細につきましては、左記当社名義書換代理人のみずほ信託銀行株式会社までご連絡ください。

表紙の写真はスバル アウトバック 3.0R L.L.Bean EDITION



PHOTO:スバル R2 R

富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話03-3347-2111

(投資家のみなさまへ) <http://www.fhi.co.jp/fina/index.html>